

車いすはどこで手に入る？ 廊下に手すりをつけるには…

# 高齢者向け 情報誌創刊

## 札幌の元会社員が編集

# 将来は全道版も

車いすはどうしたら手に入る？ 廊下に手すりをつけるには…。お年寄りと家族の視点で編集する高齢者向けの生活情報誌が札幌を中心に創刊され、反響を呼んでいる。地域の老人クラブや牛乳配達、理髪店などを通じ、「草の根」で配る仕組みも特徴。道の起業化促進奨励事業の優秀計画にも選ばれ、開業資金の助成金五百万円を受けた。一年目は季刊だが、来年から隔月刊とし、将来は全道版を目指すという。



高齢者と家族向けの生活情報誌「悠悠と、」と編集長の真鍋康利さん

情報誌は「悠悠と」。編集長の真鍋康利さん(四七)札幌市西区―が数年前、友人の母に車いすが必要になり、探すため一緒に区役所、保健所と歩いたが、思ってもよらず手間取り、「だれもがいつでも参りに、できる高齢者向け生活情報誌を作りたい」と、昨春、勤めていた札幌市内の自動車車体メーカーを退職し、医師や弁護士ら友人の出資も受け、出版社エヴァナム(同市中央区)を設立、スタッフ三人と共にこのほど、創刊にこぎ着けた。

その思いはじわじわと募り、「だれもがいつでも参りに、できる高齢者向け生活情報誌を作りたい」と、昨春、勤めていた札幌市内の自動車車体メーカーを退職し、医師や弁護士ら友人の出資も受け、出版社エヴァナム(同市中央区)を設立、スタッフ三人と共にこのほど、創刊にこぎ着けた。

で、今後の誌面づくりには、かすための座談会をメインに掲載。お年寄りが必要としている情報は何かなく、真鍋さんと訪問看護婦、高齢者が話し合っている。

発行部数は札幌、小樽市内を中心とする。両市内に約六百ある老人クラブの会長に、約五万人の会員への配布を頼んだほか、札幌市内の一部で牛乳の配達業者に、一緒に配ってもらった。地域でお年寄りになじみの理髪店や薬局などに置き、無料で持ち帰ってもらう。

今後の編集方針は、読み手側から「参考になるので取っておく」「みんなに読ませたいから回覧板に挟んで回した」といった反響が約百件寄せられ、介護や福祉関係の業者からは「顧客サービス用に配りたい」という声も届いた。

手側の視点に立った「必要なものを手に入れたらいい」のテーマで、車いすや介護用ベッドの購入方法、借り方などの記事や、段差解消や手すりをつける工事など「住み家の増改築」、「外出したい」として福祉タクシーの特集なども計画している。

真鍋さんは「老人会に出て来れない人もいる。情報誌をそういう人こそ必要なのは、草の根配達でネットワークを広げていくしかない。誌面のアイデアも歓迎。高齢の、在宅記者がワイワイ作る情報誌に育てられればと期待している。

同誌編集部は011-632-6660。